



Flower green garden Flower green garden

green Flower

Flower green



はな
花

いく
育

～はじめませんか、花育～

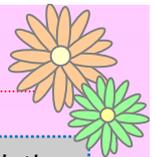
普段の生活のなかで私たちは、花や緑に触れる機会はますます少なくなっています。子どもたちにとって、このことはさらに深刻です。

さまざまな知識や体験をぐんぐん吸収する幼児・児童期の成長段階に、より多くの子どもたちが花や緑にもっとふれあい、親しみ、楽しんでもらうために、花育がそのきっかけづくりとなることを願っています。

全国花育活動推進協議会



「花育」活動の実践マニュアル～幼稚園編～



花や緑のある生活空間とそれに触れることのできる場と機会を提供し、身近に花や緑のある快さを実感させるための支援を進める。日常的に花や緑のある空間や花や緑に触れることができる環境に馴染み、花や緑に囲まれる心地良さを諸感覚で感じられるようにする。また同時に、より生活に密着した花や緑を知る機会として花や緑と関わりの深い日本古来の祭りや母の日、クリスマス等日本でも多くの家庭で親しまれている欧米由来の催事への参加を体験する。できる範囲で指導者、保護者、友達と協力して花準備の手伝いなどもしてみる。

フラワーアレンジメント



花と緑に楽しく接する機会を提供する

- ・園児が花に触れ楽しむことで、自由な発想や感性を養う。
- ・行事と花の関わりや花の色、香り、季節感を感じてもらい、生活を豊かにする方法を知ってもらう。
- ・単体の花を組み合わせてアレンジメントに仕上げる達成感を感じてもらおう。
- ・土に生えている花を摘むことで新しい体験をしてもらう。

植物の選択

- ・できるだけ色彩豊かで香りのある植物を使用する。
- ・季節に合わせた植物を使用する。

ガーデニング



身近に花や緑のある心地よさを伝える

- ・種子や球根の植え込み等により、植物を育てその一生を観察することで、命の営みを守ることの大切さを感じてもらおう。
- ・植物の成長を喜び、園児の感性を育てる。
- ・植物は種から育っていることを知ってもらう。

植物の選択

- ・日当たりや風通しの良いフェンス側や建物周辺の日陰の部分など、それぞれの環境条件に適した植物を選定する。
- ・花壇用地が確保できない場合は大型コンテナを導入する。
- ・四季折々の花が咲くように植栽計画を立てる。
- ・育てる花は行事の飾り付けに使用できるものや、丈夫で手間のかからないものを選ぶ。

注意
配慮
する点

- ・器は、割れる、重い、硬すぎる等の素材を避ける。
- ・指導する時間は30分程度。それ以上は耐えられない。
- ・花や緑をモノとして見るのではなく、生き物として見ることで指導者は見解を統一しておく。
- ・育てていた花や緑が枯死したときなど、世話をしていた子供の心のケアにも留意する。



「花育」活動の実践マニュアル～小学校編～

- ・花や野菜を育てる中で、育つ場所や成長の様子に関心をもったり、親しみを感じながら植物を世話する喜びを知り、植物を大切にしたい気持ちを持つ。
- ・花や野菜を活用する楽しさに気づき、日々の生活を豊かにする。
- ・地域の店や花き栽培農家などとの連携を通して人と人とのつながりを作り、広げる。

活動計画をたてる

花育の内容を検討する。

植物を選択する

- ・丈夫で手間のかからない、栽培環境に適したものを選ぶ。

日常的に世話をする

- ・休日も児童が交代で世話をするようにする。

行事に合わせて活用する

- ・育てた植物を、行事に合わせてアレンジしたり、お世話になった人にプレゼントする。

記録を保存する

- ・花育日記や「よくできたシート」を活用する。

花育の結果を数値化する

活動計画一例

- ・家庭
- ・地域の農家
- ・地域の店
- ・フラワーデザイナーなどの方々との共同作業を取り入れ、児童の人と人とのつながりをつくる。
- また、様々な人とかかわることで、その人々の生き方や仕事に対する姿勢に共感できる。

1年花いっぱいになあれ(20時間)

○内の数字は時間数

<活動計画>

○花を育てよう(9時間)

- ・畑やプランターで育てる花を決める。①
- ・2年生にもらったアサガオの種をまく準備②
- ・種まきをする。②・世話や観察をする。④

○花を楽しもう(7時間)

- ・咲いた花やできた種をお世話になった人、誕生日を迎えるクラスの友達、新しく入学する幼稚園や保育所の友達などにプレゼントする。④
- ・行事(母の日など)に合わせたアレンジ③

○お世話になった6年生を花で送り、1年生を花で迎えよう(4時間)

- ・春咲きの球根や花の苗を植える。②
- ・花き栽培農家に行って、花の苗や球根の植え付け方を教わりながらコンテナガーデンを作る。②
- ※日常的に世話をする。

※花育の事例や実践マニュアル、その他資料は、HPからダウンロードできます



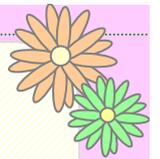
全国花育活動推進協議会

事務局：財団法人日本花普及センター

〒103-0004 東京都中央区東日本橋3丁目6番17号 山一ビル4階

TEL:03-3664-8739 FAX:03-3664-8743 <http://www.jfpc.or.jp/>

財団法人国際花と緑の博覧会記念協会の助成を受けて事業を展開しています。



4 人とのつながりを作り、広げる

花や緑の栽培や装飾の作業を共にすること、中でも普段の生活ではその機会があまり多くない高齢者、花と緑の専門家(花の生産者、フローリスト、フラワーデザイナー、グリーンアドバイザー等)との共同作業は、新しい発見や人とのつながりを作り、広げるという効果が期待できる。

5 波及効果への期待

幼児・児童期の花や緑との様々な関わりは、子供だけでなく、家族やその友人、近隣の人々等周囲にもよい影響が及ぶ。結果的には、子供を取り巻く多くの人も多様なかたちで花や緑に関わることに繋がります。

「花育」活動とは 一例をご紹介します

1 植物の栽培・収穫・装飾 など

- ① 種子や球根、苗の植え付け、株分けなど植物を育てその一生を観察する花の咲くまで、実のなるまで、種子のできるまでの過程を観察する。
- ② 花を収穫して、飾る、押花にするなど花を飾る楽しみや花を贈る喜び等の新たな体験。
- ③ 花の観察日記、花の詩、俳句、作文、花の絵を書くこと。



花や植物の観察



季節の花を装飾

2 校外に出て花や緑の利用法を学ぶ

- ① 都市、郊外での景観形成における花緑の使われ方を見学すること。
- ② 自然の野山の花、植物園、コミュニティガーデン
花の生産地、花のイベント等を見学すること。



自然の花木



生産地

3 花や緑の文化、歴史を学ぶ

- ① 花遊びや草遊び、四季の祭事等を体験する。
- ② 花の歴史、花と祭、生け花等を学習する。
- ③ 諸外国の花や緑の楽しみ方に触れる。



「母の日」のアレンジ



海外のガーデン

4 花や緑に関わる映画などの作品を鑑賞する

- ① 花の絵画・美術作品、文学、童話、アニメ、映画等の鑑賞。
- ② 花や緑に関わる内容の演劇を鑑賞したり、演じたりすること

「花育」についてのご相談は・・・

- ・ 地域の花育アドバイザーや花緑の専門家をご紹介します。
- ・ 花育ワークショップなど過去に行われた花育授業の資料もございます。

<http://www.jfpc.or.jp>

花育ってなんだろう



「花育」とは

花や緑に親しみ、育てる機会をとおして、やさしさや美しさを感じる気持ちを育むことをいいます。



「花育」の意義

幼児・児童にやさしさや美しさを感じる情操面の向上、農と接する体験教育の機会を与える。

花や緑を介した世代間交流の促進と地域コミュニティの再構築につながる。

四季に応じた花や緑を楽しむ日本の花文化の継承が期待される。

花や緑の持つ多様な機能に着目し、花や緑を教育、地域活動等に取り入れる取組である「花育」の推進を図ることは、幼児・児童期の成長期において、花と緑に親しみ・育てる機会を提供し、やさしさや美しさを感じる情操面の向上等が図られ、また地域活動においても、花や緑を介した世代交流等により、地域のつながりを深めることが期待されています。なお、21世紀は平成2年開催の大阪・花博のテーマ「自然と人間との共生」が現代の大きな課題として、今後植物と人間との関係に自然環境や生態系にも配慮して「自然破壊を回避し、健全な状態に保全すること」が花育の理念に含まれることが重要である。

(「全国花育活動推進協議会設立趣意書(抜粋)」平成20年2月)

「花育」の効果とは



1 感謝する気持ちを育む

身近な花や緑に親しむことによって生命あるものに触れる感動を体験し、植物との関わり方を学ぶ。それは自己と他者との立場・あり方を学ぶことにつながり、花や緑の外観に関心を持つだけでなく、花や緑を大切なもの、愛おしいもの、かわいいものと思う気持ちを育む。このことは花や緑の存在が人に与えてくれるものの大きさを感じ、感謝する気持ちにつながります。

2 やさしい気持ちを育む

花や緑の価値を知り、それぞれにふさわしい扱いができる感性と方法が身につく効果が期待できる。花や緑に関わる中で、花や緑を介して人と自然との関わり、生命あるものへのやさしい気持ちをもつことができれば、子供たちにとって花や緑を知ること以上の価値が得られます。

3 探求心や創造力を育む

植物の栽培を通じて、育てるため、楽しむための創意工夫をし、技能、知恵等を身につけるとともに、植物を素材として活用した多彩な創作活動等を通じて、創作の喜びを感じ、豊かな創造力を育てます。